

# なし「筑水」の着果基準

## 1. 試験のねらい

筑水は食味が良好な極早生品種であるが、果重がやや小さいことが問題となっている。高品質、大果生産をするためには、着果基準を適切に設定することが重要であり、筑水の着果基準を検討した。

## 2. 試験方法

場内栽植の筑水9年生（平成3年）2樹を供試し、平成3年から7年にかけて調査した。樹冠占有面積1㎡当たりの最終着果数を10及び8果とし、着果管理はいずれの区も予備摘果（1果そう1果）を満開後15日、仕上げ摘果（基準着果数の10%増）を満開後30日、補正摘果を満開後80日に行った。単位面積当たり葉数、葉の構成比、着果数、果実肥大及び品質を調査した。

## 3. 試験結果および考察

- (1) 果実肥大は年次間差が大きいですが、5年間の平均値でみると、着果数10果/㎡区に比べ8果/㎡区では平均果重が約6%大きくなり、約290gとなった（表-1）。
- (2) 1㎡あたり葉数は約600枚、葉面積指数は2.6~2.8、果そう葉率45%で、着果数の多少による差はなかった。葉果比は10果/㎡区で約60枚、8果/㎡区で約75枚であった（表-2）。
- (3) 着果数の差が果実の糖度、硬度、pH等の品質に及ぼす影響はなかった（表-3）。
- (4) 以上のことから、平均果重300gを目標とした筑水の着果基準は、樹冠占有面積1㎡当たり8果とし、肥大の劣る年に限って、さらに着果数を減らすことが実用的と考えられる。摘果は極力早期に行い、果実肥大を促す。

## 4. 成果の要約

「筑水」の着果基準は、収穫目標果重を300gとした場合、樹冠占有面積1㎡当たり、8果である。

(担当者 果樹部 高野孝夫)

表一 筑水の平均果重、収量、成熟日数

平成3～7年

		着果数 果/m <sup>2</sup>	平3	平4	平5	平6	平7	平均
平均果重	g	10	323	275	216	316	230	272
		8	313	246	272	345	267	289
収量	kg	10	2.5	2.5	1.9	3.2	2.0	2.4
		8	2.0	1.8	1.9	2.9	1.9	2.1
成熟日数	日	10	114	119	117	114	112	115
		8	114	120	116	114	114	116

表二 筑水の葉の構成比と葉果比、葉面積指数（満開後90日） 平成3～7年

		着果数 果/m <sup>2</sup>	平3	平4	平5	平7	平均
枚数	枚	10	565	723	533	599	605
		8	627	686	561	573	612
果そう葉率	%	10	48	40	46	46	45
		8	52	39	47	46	46
葉果比		10	56.5	72.3	53.3	59.9	60.5
		8	78.4	85.8	70.1	71.6	76.5
葉面積指数		10	2.66	3.36	2.61	2.67	2.83
		8	2.64	2.63	2.78	2.61	2.67

表三 果実品質

平成7年

着果数 果/m <sup>2</sup>	糖度 Brix%	pH	硬度 lbs
10	12.6	5.20	5.11
8	12.4	5.25	5.21